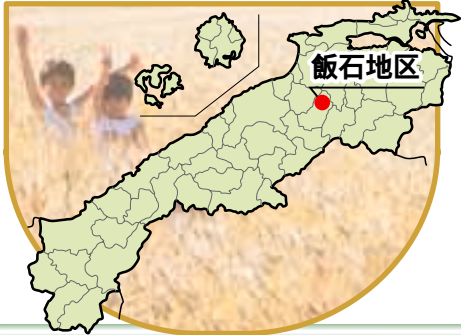


事例 10

雲南西部を結ぶ大動脈

～ 広域営農団地農道整備事業「飯石地区」～

[加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村、掛合町、頓原町、赤来町]



【地区の概要】

本地区は、雲南西部地域に位置する広域営農団地を東西に結ぶ幹線道路として50kmの農道を整備し、地域内の広域連携を図り、地域の農業生産性の向上や生活環境の改善に資するものです。

事業年度 昭和57年度～平成15年度
(予定)

事業費 43,300,000千円(予定)
施工延長 50,057m
幅員 有効幅員5.5m、全幅員7.0m



(祝原大橋：赤来町)

【農道の機能・効果】

広域営農団地整備計画に基づき、本広域農道をはじめほ場整備等の基盤整備が進み、そのことから、農業関連施設等の建設や営農の組織化が促進されるとともに、特定品目の生産量の増加や新たな作物への取り組みも始まっており、農道を利用して松江・出雲市場さらには広島市場へ出荷されています。

また、地域の生活道路として、あるいは沿線で整備が進んでいる各種の活性化施設へのアクセス道として、県内外の人々に広く活用されています。

現在、一部の区間が未整備ですが、全線開通後は、関係町村の言わば表側を通る国道54号と裏側を通る本農道とが連携し、地域発展に大きな効果を発揮することが期待されています。

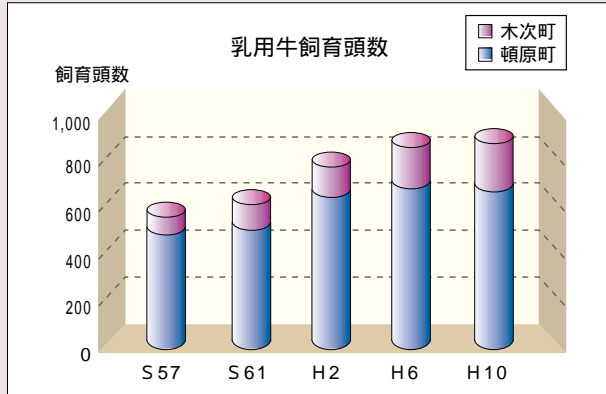
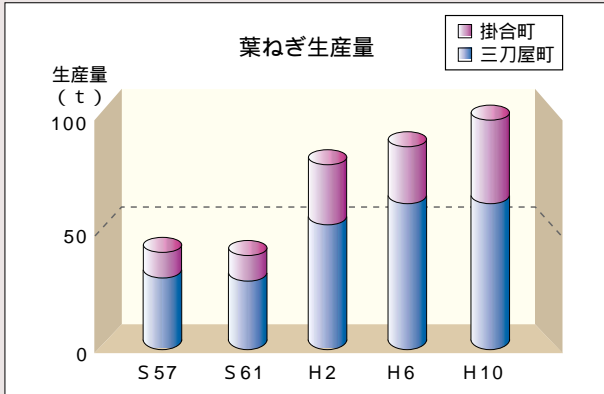


農業関係効果

特産品の生産量の増大

広域農道の整備が進み、平成4年以降順次共用を開始しており、効率的な集出荷体制が確立されつつあることから、各町村では特産品の生産に力を入れています。

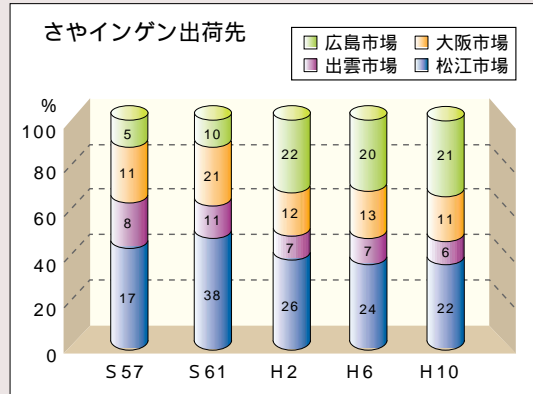
このことにより、米中心であった本地域の農産物生産が野菜・酪農等の農産物にシフトしつつあります。また、大豆、ピーマン、メロン、ぶどう、ほうれんそう、肉用牛、養鶏などについても生産振興作目と定め、積極的に取り組んでいます。



農産物の出荷先の変化

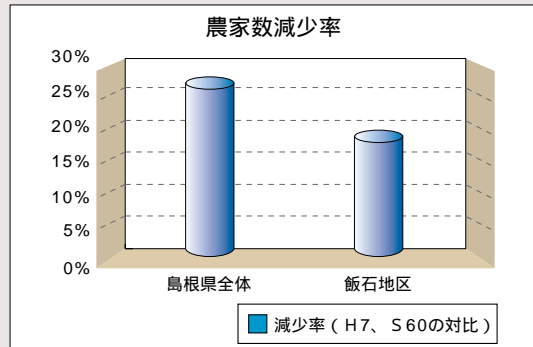
農産物の出荷先については、農道の開通を睨んだ市場開拓が行われており、従来の県内市場のみならず、広島市場への出荷が伸びてきています。

(特に、さやインゲン及びトルコギキョウ等は、10年前に比べて2倍に伸びています。)



農家数減少の歯止め

農家数については、島根県全体の減少率が26%である中で、本地区受益町村では18%であり、農道が農家数減少の歯止めには貢献しています。



農業近代化施設の整備

農業近代化施設の整備は、広域農道の部分共用に沿って着実に増えており、効率的な集出荷体制が整いつつあります。

特に、稲、野菜、花卉の育苗施設が増加していますが、広域農道が整備されたことによる生産品目の多様化の取り組みが進むとともに、農道が苗の搬送に活用されています。

